青森県指定
伝統工芸品

青森県ホームページ「青森県の伝統工芸品及び伝統工芸士（一覧）」

青森県経済産業部　地域企業支援課

〒030-8570　青森市長島１丁目１番１号
TEL:017-722-1111（代表）

３１の地の美、地の心、知の技

青森県伝統工芸品

Traditional Crafts from AOMORI Prefecture

OFFICIAL GUIDE BOOK

青森県伝統工芸品とは

青森県には、歴史と風土に培われ、生活の中で育み受け継がれてきた工芸品が数多く存在します。
その声価を高め、工芸品製造業者の製造意欲の向上及び工芸品産業の育成・振興を図ることを目的とし、平成８年に創設しました。

指定要件

1 主に日常生活の用に供されるものであること。
2 製造工程の主要部分が手工業的であること。
3 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
4 原材料が伝統的に使用されてきたものであること。
5 おおむね 50 年以上の歴史を有すること。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事から「青森県伝統工芸品」に指定されることになります。

青森県伝統工芸品マーク

「人」と青森県の「A」を暗示しながら毛筆で「伝統性」を、底辺の長方形で「現代性」を表現しています。
「地の美（Red）」は、青森県伝統工芸品の「美しさ」と伝統工芸士の「情熱」をイメージ、
「地の心（Green）」は、青森県の伝統工芸品に込められた「温もり」「和む」などのココロをイメージ、
「知の技（Blue）」は、青森県の伝統工芸品と伝統工芸士の知性ある「技」と創造性をイメージしています。

青森県伝統工芸士とは

県指定伝統工芸品製造業者のうち、高度の技術・技法を保持する者を県伝統工芸士と認定することにより、社会的な評価を高めるとともに、従事意欲と技術の向上を図り、伝統的技術又は技法の指導者として工芸品の振興、後継者の育成と伝統工芸品の次世代への継承に寄与することを目的とし、平成 13 年度に創設しました。

認定要件

1 青森県内に居住していること。
2 伝統工芸品の製造の実務経験年数が 12 年以上あり、かつ現在もその製造に従事していること。
3 伝統工芸品の製造に関する高度の伝統的技術又は技法及び必要な知識を有し、その維持又は発展に努めていること。
4 後継者育成に熱意のある人。
5 青森県伝統工芸士にふさわしい高潔な人格を有すること。
6 経済産業大臣認定の伝統工芸士でない人。

以上の要件をすべて備え、青森県伝統工芸指定審査会の意見を聴いて適当と認められるとき、知事から「青森県伝統工芸士」に認定されることになります。

国が指定する伝統的工芸品

昭和 49 年 5 月 25 日に公布された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣が指定するもので、次の５つの要件が必要です。

認定要件

1 主として日常生活に使われるものであること。
2 主な製造過程が手工業的であること。
3 伝統的な技術・技法により作られるものであること。
4 伝統的に使用されてきた材料を使っていること。
5 一定地域に生産者が集まっていること。

以上の要件をすべて備え、産業構造審議会がそれを認めたとき、経済産業大臣から「伝統的工芸品」に認定されることになります。

伝統的工芸品マーク

伝統工芸品の情報発信 ～映画「バカ塗りの娘」～

映画の概要

©2023「バカ塗りの娘」製作委員会

津軽塗をテーマとして、全編を弘前市で撮影した映画「バカ塗りの娘」が、令和５年９月に全国公開されました。
津軽塗職人を目指す娘と津軽塗職人である寡黙な父が漆や家族に向き合う姿を、四季折々の風景や土地に根付く食、そこに生きる人々の魅力を織り交ぜながら描かれている作品で、津軽塗の工程がひとつひとつ丁寧に映し出されています。

同年、映画「バカ塗りの娘」の公開に伴い、映画のロケ地７箇所を巡るロケ地巡りツアー及び津軽塗製作体験ワークショップを実施したほか、映画と古津軽ウィークとのタイアップイベント等を実施しました。また、映画公開に係る首都圏での舞台挨拶に合わせた津軽塗の PR 販売や、津軽塗等をテーマとした企画展示を実施しました。
こうした取組に加え、多くの関係者が工夫をこらした独自の取組を展開し、津軽塗のファン作りと津軽塗・伝統工芸産業の活性化を図りました。

※ロケ地巡りツアー　旅行企画・実施：（公社）弘前観光コンベンション協会、企画：県
※津軽塗製作体験ワークショップ
　事業実施：（公社）弘前観光コンベンション協会、企画：県
　協力：（地独）青森県産業技術センター 弘前工業研究所、北畠栄理子氏、大瀬歩氏、木村崇宏氏、今立氏、gallery CASAICO
※古津軽ウィーク…令和５年９月１日から 10 月 10 日まで実施された、まちあるき・体験・食事など、古津軽が感じられるイベント期間

「バカ塗りの娘」ロケ地のご紹介（津軽塗関連）

©写真：2023「バカ塗りの娘」製作委員会

①松山漆工房
「津軽塗」の主な作業シーンを撮影した工房。津軽塗職人・松山昇司氏が実際に作業場として使用している工房で撮影されました。

②弘前市立観光館
観光館２階の津軽塗展示スペースで主人公が祖父から職人としての道を説くシーンが撮影されました。同館には津軽塗が常時展示されており、技法等を見て、学ぶことができます。

③galleryCASAICO
津軽塗職人として生きていくと決心した主人公が壮大なチャレンジをするため、津軽塗の若手職人が集まるギャラリーに訪れるシーンが撮影されました。

津軽塗の代表的な４種類の技法

©写真：青森県漆器協同組合連合会、文：（地独）青森県産業技術センター弘前工業研究所

［唐塗］
津軽塗を代表する塗。多彩な研ぎ出し変り塗の基本となる技法で色漆の断層が美しい重厚な雰囲気の塗です。

［ななこ塗］
菜種の実を蒔いて江戸小紋風の輪文を出す塗。模様が魚の卵（ななこ）に似ていることからななこ塗と呼ばれています。

［紋紗塗］
籾殻の炭粉を蒔いて研ぎ出す渋くモダンな塗。艶消しの黒地に艶のある黒漆の模様が光線の当て方によって浮き出てきます。

［錦塗］
市松模様に塗ったななこ地に桜唐草などの模様を描きます。その上に錫粉を加えた朱漆を塗り研ぎ出すと錦風の豪華な雰囲気の塗となります。

弘前市内の津軽塗の店舗をご紹介

・galleryCASAICO	弘前市城東中央 4-2-11	☎0172-88-7574
・イシオカ工芸	弘前市茂森町 82	☎0172-34-6222
・津軽藩ねぷた村	弘前市亀甲町 61	☎0172-39-1511
・津軽塗 たなか	弘前市土手町 24-10	☎0172-33-4649
・津軽塗 小林漆器	弘前市東城北 3-3-12	☎0172-34-5681
・津軽塗の源兵衛	弘前市大浦町 4-3	☎0172-38-3377

青森県伝統工芸士一覧

1　津軽塗

・片山　勉 / 弘前津軽塗商工業協同組合
・秋田　良一 / 弘前津軽塗商工業協同組合

2　津軽焼

・高野　博 / 高野陶房
・野呂　薫 / ひろの窯
・小山　陽久 / 津軽千代造窯
・坂本　羊子 / 津軽藩ねぷた村

3　八戸焼

・渡邉　真樹 / 渡辺陶房

4　津軽びいどろ

・芳賀　清二 / 北洋硝子株式会社
・篠原　義和 / 北洋硝子株式会社
・神　　正人 / 北洋硝子株式会社
・舘山　美沙 / 北洋硝子株式会社

5　あけび蔓細工

・三上　徳仁 / 有限会社宮本工芸

9　南部花形組子

・舘　功 / 舘タテグ工芸

10 津軽竹籠

・三上　司

11 津軽傳統組子

・齊藤　正美 / 建具工芸・齊藤

12 こぎん刺し

・須藤　郁子 / 有限会社弘前こぎん研究所
・千葉　弘美 / 有限会社弘前こぎん研究所
・荒木　悦子 / 前田セツこぎん研究会
・工藤　夕子 / 三つ豆

13 南部菱刺し

・工藤　まさ / 南部菱刺し西野刺っ娘の会
・天羽　やよい
・中村　禮子
　/ 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
・中村　晃子
　/ 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
・横井　充子
　/ 南部菱刺し工房アトリエ縹 HANADA
・高橋　博子
・山田　友子
　/ 南部菱刺研究会・つづれや
・北向　春枝

14 津軽裂織

・村上　あさ子 / テキスタイルスタジオ村上
・村上　始 / テキスタイルスタジオ村上
・倉内　尚子 / 裂き織り工房ポンテ

15 南部裂織

・井上　澄子 / 八戸南部裂織工房『澄』
・澤頭　ユミ子 / 南部裂織保存会
・松本　律子 / 下北南部裂織
・三橋　照勝 / 南部裂織七戸町保存会
・川原　和子 / ており工房みちのく
・三好　千佳 / さきおり CHICKA
・長畑　惠智子 / 南部裂織保存会

16 津軽組ひも

・川口　良子 / 津軽組ひも工房
・佐藤　留美子 / 津軽組ひも工房

17 津軽打刃物

・三國　弘 / 三國刃物製作所
・三國　博英 / 三國刃物製作所
・田澤　幸三 / 田澤刃物製作所
・吉澤　俊寿 / 有限会社二唐刃物鍛造所
・三國　徹 / 三國打刃物店

18 錦石

・小田桐　吉津 / 小田桐錦石研究所
・須藤　伸之 / 須藤錦石加工所
・小田桐　道広 / 石小屋

19 きみがらスリッパ

・三畑　ヒロ子
　/ 十和田きみがらスリッパ生産組合
・古舘　よしえ
　/ 十和田きみがらスリッパ生産組合

20 八幡馬

・髙橋　利典 / 株式会社八幡馬

21 下川原焼土人形

・阿保　正志

22 温湯こけし・ずぐり独楽

・盛　美津雄 / 津軽こけし工人会
・阿保　六知秀 / 津軽こけし工人会
・笹森　淳一 / 津軽こけし工人会
・阿保　正文 / 津軽こけし工人会

23 弘前こけし・木地玩具

・長谷川　健三 / 津軽藩ねぷた村

26 ねぶたハネト人形

・今井　陽子

28 津軽凧

・成田　幻節 / ねぷた・凧のなりた
・溝江　由樹 / 津軽藩ねぷた村
・髙橋　勝良 / 髙橋紋章染工場

30 五戸ばおり

・稲村　幸男

31 金魚ねぷた

・檜山　和大 / 津軽藩ねぷた村
・髙橋　勝良 / 髙橋紋章染工場
・成田　幻節 / ねぷた・凧のなりた

伝統工芸士の活動紹介

令和５年度に新たに認定された
伝統工芸士にお話しを聞きました。

［南部裂織］Nambu Sakiori

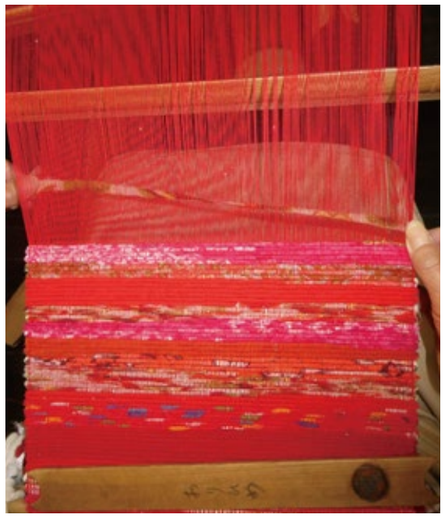
伝統を守りつつ、現代にマッチした作品が作れるように、指導に努めたい

長畑　惠智子さん　NAGAHATA Echiko　令和５年度認定

現在の活動と今後の抱負

平成 13 年に南部裂織保存会に入会して技術の修得を開始し、南部裂織保存会の創立者である菅野暎子氏から技術を学びました。南部裂織保存会の裂織教室において本科、研究科、師範科を修了し、22 年間製作を続けており、多様な技術を取り入れた作品を製作しているほか、観光客向けのおみやげ品の開発や草木染めの糸を使用した作品を製作するなど新たな作品作りも積極的に行っています。

現在、裂織教室において約20名の生徒に技術の指導を行っています。南部裂織の技術を後世に残すために、今後も技術の伝承に努めていきたいです。



［南部裂織保存会（会長：小林　輝子さん）］

長畑さんが所属する南部裂織保存会についてご紹介します。

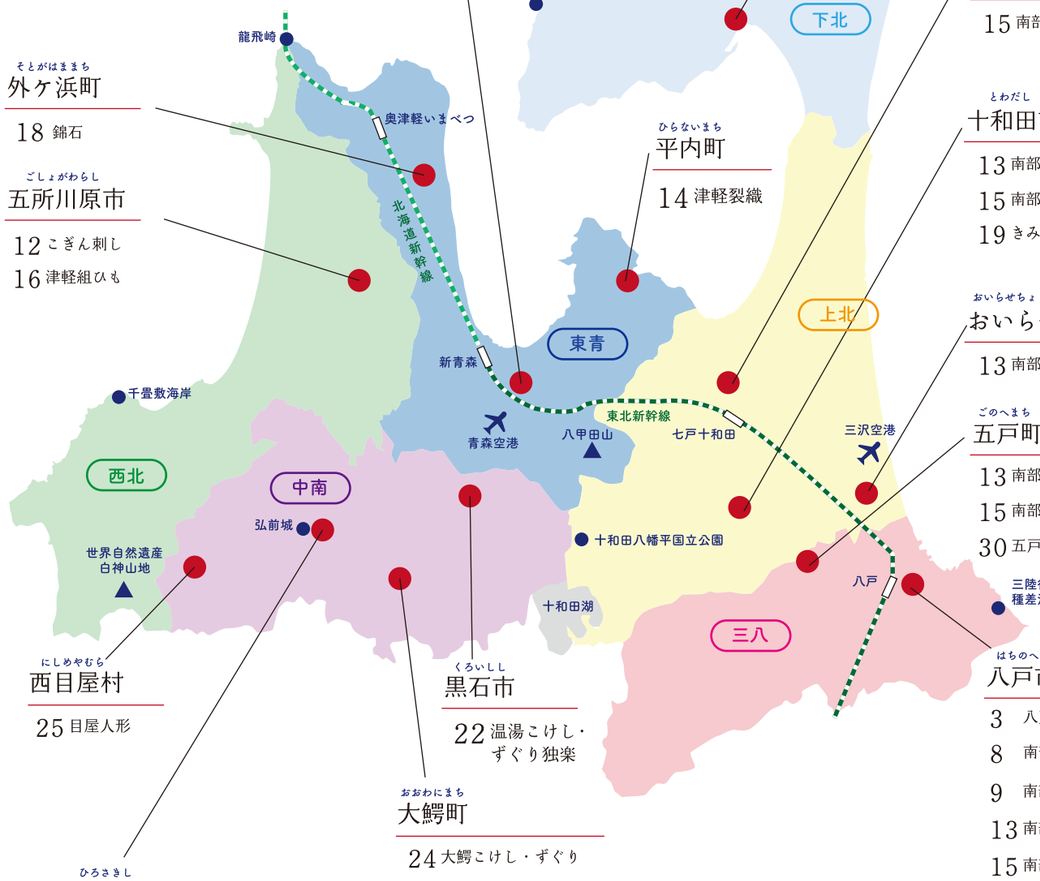
会の概要など

昭和 50 年７月７日、南部裂織保存会は菅野暎子氏により結成されました。平成 14 年 12 月には、十和田市の道の駅とわだに隣接した観光体験施設「匠工房」が落成し、「南部裂織の里」の教室及び体験のはた場開きとなりました。

令和５年 12 月現在、約 150 名の会員で構成されており、国内外からの観光客や子ども達への裂織体験を行うとともに、本格的に南部裂織を学びたい方を対象に教室を開き、南部裂織の技術の保存・普及に取り組んでいます。また、伝統的な商品に加え、現代の暮らしにあった商品を製作しています。

青森県伝統工芸品マップ

※令和６年３月現在



青森市（あおもりし）

4 津軽びいどろ
12 こぎん刺し
14 津軽裂織
15 南部裂織
18 錦石
26 ねぶたハネト人形

外ケ浜町（そとがはままち）

18 錦石

五所川原市（ごしょがわらし）

12 こぎん刺し
16 津軽組ひも

佐井村（さいむら）

15 南部裂織

むつ市

15 南部裂織

七戸町（しちのへまち）

15 南部裂織

平内町（ひらないまち）

14 津軽裂織

十和田市（とわだし）

13 南部菱刺し
15 南部裂織
19 きみがらスリッパ

おいらせ町

13 南部菱刺し

五戸町（ごのへまち）

13 南部菱刺し
15 南部裂織
30 五戸ばおり

八戸市（はちのへし）

3 八戸焼
8 南部総桐箪笥
9 南部花形組子
13 南部菱刺し
15 南部裂織
20 八幡馬
27 えんぶり鳥帽子

西目屋村（にしめやむら）

25 目屋人形

黒石市（くろいし し）

22 温湯こけし・ずぐり独楽

大鰐町（おおわにまち）

24 大鰐こけし・ずぐり

弘前市（ひろさきし）

1 津軽塗
2 津軽焼
5 あけび蔓細工
6 ブナコ
7 津軽桐下駄
10 津軽竹籠
11 津軽傳統組子
12 こぎん刺し
17 津軽打刃物
18 錦石
21 下川原焼土人形
23 弘前こけし・木地玩具
28 津軽凧
29 太鼓
31 金魚ねぷた

漆器・陶器・ガラス

1 津軽塗（つがるぬり）

2 津軽焼（つがるやき）

3 八戸焼（はちのへやき）

4 津軽びいどろ（つがるびいどろ）

木・竹工品

5 あけび蔓細工（あけびつるざいく）

6 ブナコ（ぶなこ）

7 津軽桐下駄（つがるきりげた）

8 南部総桐箪笥（なんぶそうきりたんす）

9 南部花形組子（なんぶはながたくみこ）

10 津軽竹籠（つがるたけかご）

11 津軽傳統組子（つがるでんとうくみこ）

染織品・繊維製品

12 こぎん刺し（こぎんざし）

13 南部菱刺し（なんぶひしざし）

14 津軽裂織（つがるさきおり）

15 南部裂織（なんぶさきおり）

16 津軽組ひも（つがるくみひも）

金工品

17 津軽打刃物（つがるうちはもの）

諸工芸品

18 錦石（にしきいし）

19 きみがらスリッパ（きみがらすりっぱ）

20 八幡馬（やわたうま）

21 下川原焼土人形（したかわらやきつちにんぎょう）

22 温湯こけし・ずぐり独楽（ぬるゆこけし・ずぐりこま）

23 弘前こけし・木地玩具（ひろさきこけし・きじがんぐ）

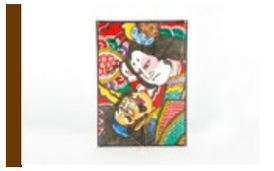
24 大鰐こけし・ずぐり（おおわにこけし・ずぐり）

25 目屋人形（めやにんぎょう）

26 ねぶたハネト人形（ねぶたはねとにんぎょう）

27 えんぶり鳥帽子（えんぶりえぼし）

28 津軽凧（つがるだこ）



29 太鼓（たいこ）

30 五戸ばおり（ごのへばおり）

31 金魚ねぷた（きんぎょねぷた）

漆器・陶器・ガラス

1 津軽塗 Tsugaru Lacquer Ware

「津軽の馬鹿塗り」の異名をもつほど手間と時間をかけて丁寧につくられる逸品「津軽塗」

津軽塗はおよそ 300 年前の津軽藩四代藩主信政の時代に津軽藩召し抱えの塗師池田源兵衛によって始められたと伝えられている。江戸時代には津軽藩の保護･育成の下､主に藩の調度品として用いられた。明治初期に産業として確立後は人々に親しまれる愛玩品として幅広く使われている。
津軽塗の代表格である唐塗はヒバの素地から塗り・研ぎ・磨きを繰り返し、48 もの長い工程を経て完成される堅牢優美な塗物である。唐塗だけではなく七々子塗・紋紗塗・錦塗の伝統的な 4 つの技法が現在まで受け継がれている。さらに現代風のアレンジを加えて多彩な紋様を生み出すことができる。昭和 50 年に国の伝統的工芸品として産業指定。平成 29 年に重要無形文化財として技術指定され、津軽塗技術保存会が保持団体認定を受けた。

主な製品　椀・重箱・テーブル・茶器・花器・盆・箸・飾棚

主な製造工程　木地固め→布着せ→地付け→仕掛け→彩色→荒研ぎ→炭はぎ→摺漆→艶付→上塗→完成

CONTACT

青森県漆器協同組合連合会　／弘前市神田 2-4-9　☎0172-35-3629
津軽塗技術保存会　／弘前市賀田 1-1-1　☎0172-82-1642
弘前津軽塗商工業協同組合　／弘前市西大工町 82-1　☎0172-35-4004
株式会社たなか銘産　／弘前市大字田町 4-2-2　☎0172-36-0111
津軽藩ねぷた村　／弘前市亀甲町 61　☎0172-39-1511

漆器・陶器・ガラス

2 津軽焼 Tsugaru Pottery

津軽の風土を表すような素朴ながらも独特な味わいがある「津軽焼」

津軽焼の源流は津軽藩四代藩主信政によって集められた陶工たちが築いた平清水焼・大沢焼・下川原焼・悪戸焼である。藩政時代には主として津軽藩の調度品や日用雑器が焼かれていた。
しかし明治に入り鉄道の開通に伴って流入した他県の焼物に押された結果、大正時代には一時途絶えてしまう。現在の津軽焼は昭和に入って再興したものである。
現在の津軽焼は地元の土の味を生かし、釉薬に黒天目釉やりんごの木灰を原料とするりんご釉を使うものが主流になっている。このようにして作られる津軽焼は風土の特徴が生かされた素朴な色合いが魅力的な焼物である。

主な製品　茶器・花器・酒器・皿類

主な製造工程　土練り→成形→加工→乾燥→素焼き→下絵付け→施釉→本焼き（焼成）→完成

CONTACT

津軽藩ねぷた村　／弘前市亀甲町 61　☎0172-39-1511
ひろの窯　／弘前市広野 2-3-5　☎0172-87-0211
高野陶房　／弘前市清水森字沼田 16-3　☎0172-87-5844
津軽千代造窯　／弘前市城南 4-11-3　☎0172-32-8465

漆器・陶器・ガラス

3 八戸焼 Hachinohe Pottery

青森の大自然を連想させる焼物「八戸焼」

八戸焼は、江戸時代末期まで八戸の山中で焼かれていた焼き物である。藩主御用達品であった津軽焼とは異なり、八戸焼は民窯（庶民の為の焼き物）として親しまれていたと言われている。
一時期廃れてしまった八戸焼だが、昭和 50 年渡辺昭山の手によって再興された。現在では八戸市内で採取した粘土に工夫を加え、百数十年前の八戸焼を再現している。
八戸焼の特徴は、独自の緑釉を使い、青森の自然を体現した「緑色」である。青森の豊かな自然を焼物から感じ取れる一品といえる。

主な製品　花器・茶器・酒器・食器

主な製造工程　成形→乾燥→素焼き→上ぐすり付け→本焼き→完成

CONTACT

渡辺　陶房　／八戸市上野字上野平 33-6　☎0178-23-4020

漆器・陶器・ガラス

4 津軽びいどろ Tsugaru Glassware

青森の移りゆく四季を色とりどりの表情で魅せる「津軽びいどろ」

津軽びいどろは漁業用浮玉の製法を応用して作られるようになったガラス工芸品である。
津軽半島の西側にある七里長浜の砂を一部材料に使用し、古来からある難易度が高い「宙吹き」の技法を用いて生み出されたのが始まりである。
1500 度の高温で材料を溶解し、成形温度 1200 度という灼熱の中で真っ赤に溶けたガラスは、吹き棹に巻き取られ職人に息を吹き込まれることによって、豊かなかたちと色合いを持った工芸品に姿を変える。
現在では9種類の技法と多彩な色ガラスを使ったカラフルで実用的な商品が多く作られている。

主な製品　花瓶・冷酒用徳利・盃・タンブラー

主な製造工程　材料調合→溶解→成形→徐冷→仕上げ→完成

CONTACT

北洋硝子株式会社　／青森市富田 4-29-13　☎017-782-5183

木・竹工品

5 あけび蔓細工

"Akebi" Vine Crafts

丹念に編み込まれ、丈夫で使うほどになじむ「あけび蔓細工」

あけび蔓細工は江戸時代の末に岩木山麓の嶽（だけ）温泉で、湯治客への土産品として、付近の山々に自生するあけび蔓を原料とし、炭籠・手提げ籠などが広く作られるようになった。明治以降には内外の展覧会をはじめ、広く海外へも市場が広がった。
全工程を手作業で行い、時間と手間暇をかけて丹念に仕上げられているため、あけび蔓細工のもつ色合い、野趣豊かな手触り、基本的な並編みや中が透けてみえるこだし編みなどの多彩な編み模様は、落ち着きと自然の温かさを感じさせる。また、耐久性に優れ、使うほどに滑らかさと艶で出てくるため末永く楽しめる一品である。

主な製品　手提げ籠・盆・ざる

主な製造工程　蔓の選定→陰干し乾燥→水に浸す→節取り→底編み→胴編み→縁編み→手付け→端切り→仕上げ→完成

CONTACT

有限会社宮本工芸／弘前市南横町 7　☎ 0172-32-0796

木・竹工品

6 ブナコ

BUNACO

独自のユニークな製法で変幻自在に姿を変えることができる「ブナコ」

ブナコは、昭和 30 年代に青森県工業試験場で試作、研究の結果考案された木工品である。日本一の蓄積量を誇る青森県のブナを有効に活用するため、水を多く吸い込むブナの特徴を最大限に生かし、薄いテープ状にして螺旋状に巻き立体の物を形作ることで、材料となる木材を無駄なく使うことができる。従来の木工品にはないような形状も表現することができ、ひとつひとつが丁寧に手作りされている。
現在では食器用品だけではなく、ランプやスピーカーなど、デザイン性の高いインテリア用品にもその技術は応用されている。

主な製品　食器・ランプ・スピーカー・ティッシュボックス・ダストボックス

主な製造工程　材料ひき割り→底板加工→巻き→型上げ→接着→木地調整→下塗り塗装→仕上げ塗装→完成

CONTACT

ブナコ株式会社／弘前市豊原 1-5-4　☎ 0172-34-8715

木・竹工品

7 津軽桐下駄

Tsugaru paulownia "Geta"
（Wooden Clogs）

厳しい風雪の中で育まれ、木質が堅く木目も美しい「津軽桐下駄」

日本人の履物として古代より用いられてきた下駄は江戸時代に広く流行したが、生活の洋風化が進むことで今日では職人の数も少なくなっている。
下駄の材料には桐が最も適している。理由は軽く柔らかいうえに、反動が少なく温度変化にも強いからである。特に厳しい風雪の中で育まれた津軽の桐は木質も堅く、木目も美しい。
白木の下駄のほか雪の多い土地柄に合わせた雪下駄、津軽塗下駄などが古くから作られ、しっとりとした雰囲気を醸し出している。

主な製品　白木下駄・雪下駄・津軽塗下駄

主な製造工程　桐の切断→自然乾燥→輪切り→木取り→あいだひき→あらつき→おがみつき→わきかんな→すみつけ→はなまわし→はなあけ→つらがけ→とくさがけ→完成

CONTACT

阿保下駄製作所／弘前市城東北 3-8-20　☎ 0172-26-1588

木・竹工品

8 南部総桐箪笥

Nambu Paulownia Chest

職人技が映える美しい桐の柾目が醸し出す気品あふれる「南部総桐箪笥」

古く城下町として発達した三戸町は南部桐生産の中心地である。大正時代初期から桐材は下駄にも利用され昭和 30 年代まで全国に出荷されていた。
三戸町内及び周辺の町には家具店があり明治時代中ごろから八戸周辺で桐箪笥の製作が始まったとみられている。
総桐箪笥は金具のほかは釘に至るまですべて木材を使用して作り上げられる。桐の生命ともいうべき柾目は、丹念な手作業が醸し出す美しさと気品を感じさせる。

主な製品　総桐箪笥・小箪笥・机・収納箱

主な製造工程　木釘作り→造材→乾燥→木取り→狂い直し→板接ぎ→組立加工→仕上げ・着色→完成

CONTACT

在家　福治／八戸市河原木字前谷地 118-3　☎ 0178-27-5965

木・竹工品

9 南部花形組子

Nambu Floral "Kumiko"

高度に熟練した技術が芸術的な曲線美を生む「南部花形組子」

南部花形組子は、飛鳥時代から建築物の装飾として受け継がれている組子の一種である。
花形カンナという専用のカンナを用いて曲線的な加工を施し、釘を一切使わずに美しい幾何学模様を描く木工品である。原材料には主に県産材の青森ヒバを使用し、木材の種類や木肌の色の違いを利用して模様を描くことが南部花形組子の特長である。
曲線的で美しい南部花形組子は和風の建具のみならず、洋風ドアや電気スタンドなど「和」だけではなく「洋」にも取り入れられている。

主な製品　ティッシュボックス・電気スタンド・行灯・衝立など

主な製造工程　小割→引割→寸法の割り出し→削り→仕上げ→組立て→完成

CONTACT

舘タテグ工芸 ／八戸市小中野 5-10-31　☎ 0178-24-5438

木・竹工品

10 津軽竹籠　Tsugaru Bamboo Baskets

りんご畑から生まれた丈夫で軽く実用性の高い「津軽竹籠」

竹籠を作る技術は約 200 年前に遡るが、今日のように多量に生産されるようになったのは、津軽地方がりんごの産地として定着し、作業用の手籠が作られるようになってからである。
岩木山麓や八甲田山麓で採取される丈夫で耐久性に優れた根曲竹を用いて作られる津軽竹細工は、他産地の竹製品とは異なり、六角目などの大まかな編み目で、しなやかさ、軽さと丈夫さが特徴である。
現在では丸碗かごや果物皿など大きさや用途に応じて様々な商品が作られている。

主な製品　りんご手籠・野菜籠・椀籠・果物籠

主な製造工程　竹採取→四つ割→編み→完成

CONTACT

三上　司／弘前市大字八幡字古喜田 51-4　☎ 0172-82-3054

木・竹工品

11 津軽傳統組子　Tsugaru traditional "Kumiko" Woodworking

直線的なパーツの繊細な組合せによる幻想的な立体美「津軽傳統組子」

津軽傳統組子は、飛鳥時代から約 1300 年以上続く建築物の装飾として受け継がれている組子の一種である。細く挽いた木に溝や穴、ホゾを彫り、直線的ないくつものパーツを組み合わせることで、立体的で複雑な幾何学模様を描くことが、津軽傳統組子の特長である。
その技法は籠のような模様を表現する「目潰し本篭目」、木材を縦横互いに組み付ける「本捻組」、三角形を複合し六角形の亀甲模様を織りなす「亀甲組子」など多岐にわたり、屋内装飾、行燈、衝立、屏風、球体のランプシェード、バッグなど幅広い製品を作り出すことができる。

主な製品　行灯、衝立、屏風、欄間、化粧組子

主な製造工程　切断→見込み→寸法の割出→見付仕上げ→切り出し→組立→表面仕上げ→完成

CONTACT

建具工芸・齊藤／弘前市茂森新町 3-1-13　☎ 080-5566-7223

染織品・繊維製品

12 こぎん刺し　"Kogin" Embroidery

厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物「こぎん刺し」

江戸時代、津軽の農民は木綿の衣料を着ることが許されていなかった。そのため麻地の着物を何枚も重ね着して寒さをしのいでいた。そこで農村の女性たちは保温と補強のために、麻の布地の要所要所に木綿で刺子を施した。こうして生み出されたこぎん刺しは、厳しい北国の自然の中で生きてきた女性の知恵の産物である。
こぎん刺しの特徴は、藍染の麻地に白い木綿糸で縦の織り目に対して奇数の目を数えて手刺しすることで、素朴で美しい幾何学模様が生み出されるところにある。また今日では用途によって木綿地やウール地なども用いられており、色彩も時代を経て多彩さを増している。

主な製品　巾着・帯・バッグ・ネクタイ

主な製造工程　糸より→麻地染め→生地織り→生地を整える→裁断→刺し→仕上げ→加工→完成

CONTACT

前田セツこぎん研究会　／青森市安方 1-1-40-2F　☎ 017-735-5311
岩木かちゃらず会／ 弘前市鳥井野字長田 60-6　☎ 0172-82-5109
有限会社弘前こぎん研究所／弘前市在府町 61　☎ 0172-32-0595
三つ豆　／ 五所川原市中央 3-118　☎ 090-2846-0076

染織品・繊維製品

13 南部菱刺し　Nambu Diamond Embroidery

ウメノハナ・クルミなどの多彩な幾何学紋様が美しい「南部菱刺し」

江戸時代、八戸を中心とする南部地方で南部菱刺しが生み出された。当時の農民たちは麻や苧麻の着物しか着ることを許されておらず、木綿は糸として使用するものと決められていた。そこで農村の女性たちは補強と保温のために麻に木綿糸を刺して、厳しい北国の生活をしのいできた。この技術が現在まで受け継がれている。
菱刺しの特徴は麻布に綿糸で偶数目を拾って織り成されるウメノハナ・キジノアシなどの横に長い菱型の多彩な幾何学紋様である。
現在では麻地以外に木綿地やウール地も用いられ、ネクタイやタペストリーなど新たな製品にもその技術は応用されている。

主な製品　卓布・前垂れ・のれん・バッグ

主な製造工程　麻地の地直し→紋様のデザイン→刺し→仕上げ→完成

CONTACT

天羽 やよい　／八戸市長者 4-2-26-11　☎ 0178-46-4662
南部菱刺し西野刺っ娘の会／八戸市長苗代字内舟渡 25-1　☎ 0178-28-2886
南部菱刺し工房アトリエ縹 ／八戸市白銀町字人形沢 6　☎ 080-2802-0715
HANADA
南部菱刺研究会・つづれや ／八戸市大字田面木字上野平 91-7　☎ 090-3532-4855
南部ひしざし保存会／ 十和田市東一番町 8-10　☎ 0176-23-0024
高橋　博子　／ 五戸町字古舘 1-7　☎ 090-9531-4203
北向　春枝　／ おいらせ町中下田 147-12　☎ 0178-56- 4107

染織品・繊維製品

14 津軽裂織　Tsugaru Sakiori

独特の手ざわりと深みのある色合いが美しい「津軽裂織」

津軽では裂織を「サクリ」と呼ぶ。江戸中期以降津軽の海岸線地域では日本海交易の北前船により古手木綿が普及し、布を裂いて織るサクリが漁師・農民の仕事着や日常着として作られた。
サクリはその用途から薄く柔らかく仕上がるように工夫された技法で織られ、真新しいサクリは晴れ着として男たちや女たちを飾り、雪国の寒さから人々を守った。
裂かれた布のささくれた風合いが独特の手ざわりを生み、古着の色の組み合わせによる時を経た深みのある色合いが魅力となっている。現在では、絹布をブナやナラ、りんごなどで染めて横糸にした綴れ織り・綾織りなどの技法を使ったバッグのほかコートなど様々な商品がある。

主な製品　卓布・バッグ・コート

主な製造工程　デザイン及び設計→機ごしらえ→裂布を作る→製織→仕上げ→完成

CONTACT

テキスタイルスタジオ村上・青森手織サクリ会／　青森市高田朝日山 809-256　☎ 017-739-7761

裂き織り工房ポンテ　／　平内町小豆沢字茂浦沢 101-2　☎ 017-755-2765

染織品・繊維製品

15 南部裂織　Nambu Sakiori

古布を再生し新しい命を吹き込む「南部裂織」

南部裂織は江戸時代に着古した着物や布を再生する機織りの一技法として生み出された織物である。当時は、寒冷な気候のために綿の栽培は難しく、北前船で運ばれた木綿や古手木綿はとても貴重な存在であった。そのため、厳しい生活を強いられた農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれたものである。
細く裂いた布を横糸に、木綿糸を縦糸にして地機で織った裂織は丈夫で暖かく、そのカラフルな色移りと複雑な機上げが特徴である。
主としてこたつ掛けや帯などに用いられてきたが､現在ではテーブルカバーをはじめ現代感覚の手織物にも応用されている。

主な製品　卓布・手提げ袋・こたつ掛け

主な製造工程　整経→筬（おさ）通し→男巻き（おまき）→綾越し→糸綜統作り→元寄せ→機上げ→製織→完成

CONTACT

さきおり CHICKA　／ 青森市安方 1-1-40　青森県観光物産館 2 階 machicotoba 内　☎ 090-4886-3801

八戸南部裂織工房『澄』／ 八戸市江陽 1-28-6　☎ 0178-24-5045

ており工房みちのく　／ 八戸市大字河原木字袖ノ沢 2-80　☎ 0178-28-5818

南部裂織保存会　／ 十和田市伝法寺字平窪 37-21　☎ 0176-20-8700

下北南部裂織　／ むつ市田名部下道 4 むつグランドホテル裂織館 ☎ 0175-22-2464

むつ裂織サークル　／むつ市大平町 9-7　☎ 0175-24-0508

南部裂織七戸町保存会／七戸町字上屋田 47-8　☎ 0176-62-6239

仏ヶ浦裂き織り　／佐井村大字佐井字大佐井 112 津軽海峡文化館アルサス内 1 階　☎ 0175-38-2939

八戸さき織の会　／五戸町中崎 5-11　☎ 0178-62-3355

五戸町裂織愛好会　／五戸町下タノ沢頭 48-11　☎ 080-1816-3000

染織品・繊維製品

16 津軽組ひも　Tsugaru "Kumihimo" (Braiding)

青森の風土を感じる優しい色合いと高度な組み技術が融合した「津軽組ひも」

縄文土器の縄目模様からもわかるように、組み・編みの歴史は古い。
青森では津軽五所川原近郊の生活必需品であった藁工芸品にその歴史を見ることができる。特異な気候風土の中で生活する人々の知恵と創造と美意識が生んだ藁工芸品。藁工芸品には簡単な三つ組みから、高度な技術の笹浪組みまで取り入れられている。
この藁工芸品の編み方を応用し、りんごや藍などの草木染めを取り入れて津軽の命を吹き込み、津軽組ひもが誕生した。帯締めをはじめアクセサリーなどにも広く活用されている。

主な製品　帯締め・ブローチ・ネックレス・慶弔結び

主な製造工程　糸割り→染色→糸繰り→経尺→玉つけ→組みあげ→仕上げ→完成

CONTACT

津軽組ひも工房　／五所川原市金木町菅原 240-17　☎ 090-2027-6106

金工品

17 津軽打刃物　Tsugaru Handcrafted Knives

優れた切れ味と耐久性をもつ実用的な「津軽打刃物」

鍛冶は古くより刀鍛冶・農具鍛冶・鉄砲鍛冶と分かれていた。近世になって包丁鍛冶が出てきたが、一般には農具・工具や包丁・鋏などを生産していた。
鍛冶町という町名が示すとおり、藩政時代には弘前でも多くの鍛冶屋が軒を連ね農具や武器を製造していた。現在でも伝統的な技能を受け継いだ職人たちが刃物を中心に作り続けている。
伝統的な「火造り」､「泥塗り」などの焼き入れ技術により、優れた切れ味と耐久性をもつ品質の高い包丁類が作られている。また、りんごの産地である津軽には欠くことのできない摘果・枝切り用の剪定鋏も作られている。

主な製品　和包丁・剪定鋏・鉈・鎌

主な製造工程　火造り→荒仕上げ→焼き入れ→焼きもどし→刃付け→仕上げ→柄付け→完成

CONTACT

三國刃物製作所　／弘前市金属町 4-15　☎ 0172-88-0555

有限会社二唐刃物鍛造所　／ 弘前市金属町 4-1　☎ 0172-88-2881

田澤刃物製作所　／弘前市茂森新町 2-3-11　☎ 0172-32-1087

三國打刃物店　／ 弘前市茂森町 170-3　☎ 0172-33-2202

18 錦石　"Nishiki" Stone Products

諸工芸品

磨きぬかれた光沢が美しい津軽石「錦石」

「陸奥の錦石」として名高い青森の錦石は、碧玉、めのう、玉髄などの石英に各種金属イオンが混入したことにより、複雑で格調のある色彩が交錯したものである。錦石は津軽半島周辺などで採取される天然石で、磨くと光沢とともに美しい色彩や紋様が現れる。
錦石は古くからその美しさが人々に愛されつづけ、縄文時代には「勾玉」に加工されたり、室町時代には「舎利石」として尊ばれ、遠く唐・天竺まで輸出されたり、江戸時代には津軽玉と称されてかんざしなどの装飾品として珍重されてきた。
現在では鑑賞用の美石のほか、指輪、ネックレスなどの装飾具としても広く活用されている。

主な製品　美石・指輪・ネクタイピン

主な製造工程　石の選別→大割り→小割り→型取り→研磨→洗浄→完成

CONTACT

小田桐錦石研究所／青森市西滝 3-19-27　☎ 017-781-2347

えびす錦石店　／外ケ浜町字蟹田鰐ヶ淵 20-1　☎ 0174-22-2114

須藤錦石加工所　／弘前市大字紺屋町 13-3　☎ 0172-32-6103

19 きみがらスリッパ　"Kimigara"(Corn Husk) Slippers

諸工芸品

カラフルかつ機能性の高さが人気の「きみがらスリッパ」

青森県の方言で、とうもろこしは「きみ」と呼ばれる。きみがらスリッパは、自然乾燥させた「きみ」の「から」、つまりとうもろこしの皮から作っている。かつて馬産地だった十和田地方は、飼料用とうもろこし「デントコーン」の栽培がとても盛んで、大量に発生する「きみがら」の再利用のために、昭和 20 年代の初めごろから作られるようになった。
履き心地がよく、夏はサラリと涼しく冬はあたたかいのが特徴。また、軽くて丈夫なうえ、通気性もよい。そのため主にスリッパや草履として重宝されている。また原色の染色ができることから、彩り鮮やかな配色も可能である。

主な製品　スリッパ・状差し・インテリア用小物

主な製造工程　皮の選別→乾燥→縄綯い→皮の染色→乾燥→皮裂き→編み込み→仕上げ→完成

CONTACT

十和田きみがらスリッパ生産組合／十和田市伝法寺平窪 37-2　☎ 0176-28-3611

20 八幡馬　"Yawata" Horses

諸工芸品

日本三駒に数えられる櫛引八幡宮の御神馬「八幡馬」

日本三駒の一つとしても数えられ、青森県南部地方の代表的な郷土玩具・民芸品である。
古来、南部地方の一宮・櫛引八幡宮の境内馬場では「流鏑馬（やぶさめ）」が行われ、地方の優れた馬が奉納されていた。その姿を模して作った木彫り馬がそもそもの始まり。櫛引八幡宮の例大祭で参拝者のお土産として売られるようになり、人々はその地名より「八幡馬」と呼ぶようになる。
明治以降、社会や生活環境の変化に伴い、作り手や産地、形状や木彫り馬のもつ意味も変化しながら、郷土玩具としての形が定着する頃には、親子馬、嫁入道中の盛装馬の模様など、子供や家族の幸せを願う愛情溢れる民芸品となる。
現在では結婚、新築、開業、出産、落成など各種お祝い事の記念品・贈答品として喜ばれている。

主な製品　八幡馬

主な製造工程　木取り→削り→下塗り→加飾・絵付→毛すげ→完成

CONTACT

株式会社八幡馬／八戸市沼館 2-5-2　☎ 0178-22-5729

21 下川原焼土人形　"Shitakawara" Pottery's Earthenware Dolls

諸工芸品

素朴で温かみがある鳩笛が優しい音色を奏でる「下川原焼土人形」

下川原焼土人形は江戸時代の後半に九州筑前で陶磁器作りを習得してきた初代高谷金蔵が、津軽藩に召し抱えられて下川原に窯を築いたのが始まりである。
明治時代の土人形人気による隆盛、ブリキなど新しい玩具の普及に押された大正時代の衰退という浮き沈みを経て、現在まで受け継がれている。
下川原焼土人形は赤土と砂を調合した粘土を石膏の型枠にはめて形を整え、約 800 度の高温で数時間窯焼きし、最後に色つけをして出来上がる。
鳩笛や干支人形が有名であるが、実際人形の種類は数百も存在する。その素朴な形と穏やかな表情によって淡い郷愁がかきたてられる。

主な製品　土人形・鳩笛・人形笛

主な製造工程　粘土の調合→型ぬき→乾燥→素焼き→地塗り→彩色→完成

CONTACT

高谷下川原焼土人形製陶所／弘前市桔梗野 1-20-8　☎ 0172-32-6888

阿保　正志　／弘前市新里字上樋田 85-2　☎ 0172-27-3766

諸工芸品

22 温湯こけし・ずぐり独楽 "Nuruyu" Kokeshi Dolls and "Zuguri" Tops

曲線美豊かな津軽系こけしの祖「温湯こけし」、雪の上でも回る津軽地方の伝統独楽「ずぐり」

津軽系こけしの発祥地である黒石市温湯温泉。大正時代の初めに、津軽系こけしの創始者である盛秀太郎がこけしを作り始め、現在はこけし工人が集まって「津軽こけし工人会」を結成し、伝統と新しさを見据えたこけし作りが続けられている。
胴に描かれるアイヌ模様、眉を吊り上げてにらみをきかせる顔、すそ広で膨らんだ胸と極端な腰のくびれなどが、温湯こけしならではの特徴である。また胴体には、津軽藩の家紋から取り入れたといわれる牡丹の花も使われている。ずぐり独楽は温湯こけしの製作が始まる前より製作が始まったとされ、津軽地方では冬のずぐり遊び文化が今も残っている。

主な製品 こけし・ダルマ・ずぐり独楽

主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽こけし工人会／黒石市袋宇富山 72-1　☎ 0172-54-8181

諸工芸品

23 弘前こけし・木地玩具 "Hirosaki" Kokeshi Dolls and Traditional Wooden Crafts

可憐で愛らしい「弘前こけし」、なつかしさの中に工夫を重ねた「木地玩具」

東北地方の工芸品である伝統こけしは 11 系統に分類される。その中の一つ、津軽系こけしは、主に 1 本の木から作られる“作りつけ”という技法で作られ、髪型はオカッパ頭という特徴を持ち、黒石市、大鰐町、弘前市で作られるこけしの総称である。
明治時代から津軽地方内の木地師及び津軽と他県の木地師との交流が盛んに行われる中で、弘前こけしは津軽系こけしの中でも大鰐系の流れをくむものとして現在まで受け継がれている。
またこの地域ではこけし作りとともにこまやダルマなどの木地玩具も盛んに作られ、地域の人々に愛されている。

主な製品 こけし・こま・ダルマ

主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

津軽藩ねぷた村／弘前市亀甲町 61　☎ 0172-39-1511

諸工芸品

24 大鰐こけし・ずぐり "Owani" Kokeshi Dolls and "Zuguri"

素朴な中にも華やぎのある「大鰐こけし」、色彩が美しい「ずぐり」

大鰐こけしは明治初期に温湯温泉津軽系こけしの発祥地である温湯温泉から大鰐温泉に移り住んで木地挽きを始めたこけし職人たちが、大正時代になってこけしを作りだしたのが始まりである。
大鰐こけしの特徴は、張りぎみの肩からまっすぐに伸びる胴体と、そこに描かれるあやめ模様にある。あどけない笑みを浮かべるその表情は、見る者に素朴な温かみを感じさせる。
ずぐりは色彩豊かな独楽であり、雪国の子供たちの玩具として親しまれている。

主な製品 こけし・ずぐり

主な製造工程 木地挽き→ロクロ線入れ→模様付け→顔描き→ロウ挽き→完成

CONTACT

嶋津 誠一／黒石市袋富山 72-1（津軽こけし館）　☎ 0172-54-8181

諸工芸品

25 目屋人形 "Meya"Dolls

愛らしい絣姿の目屋乙女「目屋人形」

岩木山と白神山地に囲まれる西目屋村。かつては県内有数の木炭産地でもあったこの村では、昭和の初めごろまで馬車の入り込めない山岳の細道を、炭俵を背負って里に降りるモンペ姿の娘子の姿が見られた。目屋人形はそのようなかわいらしい娘子をかたどった人形である。
目屋人形は昭和の初期に若者たちが集まって村の土産物として作り始め、弘前や東京などで売られていた。需要の衰えや後継者不足から昭和 40 年代には一旦途絶えてしまったが、近年その再現に成功し、現在に至っている。

主な製品 目屋人形

主な製造工程 簑作り→衣装作り→胴体作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

目屋人形製作部会／ 西目屋村田代字稲元 143　☎ 0172-85-2828

諸工芸品

26 ねぶたハネト人形 Nebuta Haneto Dolls

今にも動きだしそうな躍動感あふれる人形「ねぶたハネト人形」

「青森ねぶた祭り」は人形型の灯籠を台車に乗せて町を練り歩く青森市の伝統的な祭りである。中でも勇壮な太鼓や笛の囃子に「ラッセラー、ラッセラー」と声を合わせ、ねぶたの前を華麗に踊り跳ねる跳人（ハネト）の姿は、北国の夏の風物詩である。
ねぶたハネト人形は、青森ねぶた祭りで躍動するハネト姿をかたどったものである。イ草や浴衣地などを原材料に、頭の笠から足先まで一つ一つ手作業で細部に至るまで丁寧に作られている。今にも動きだしそうなハネトの表情は一体として同じものはない。

主な製品 ねぶたハネト人形

主な製造工程 笠編み→胴体作り→顔作り→衣装作り→衣装付け→仕上げ→完成

CONTACT

今井　陽子／青森市南佃 1-16-6　☎ 017-742-6459

諸工芸品

27 えんぶり烏帽子 "Enburi" Festival Hats

長い冬の終わりを告げ春を呼ぶ祭りの象徴「えんぶり烏帽子」

春を呼ぶ祭り「えんぶり」は、明治時代以降に八戸地方で民俗芸能として定着した豊年満作を祈る「田遊び」と呼ばれる神への祈願行事である。太夫と呼ばれる舞い手が、えぶりという農具を手に、田の土をかきならす所作をする。その太夫がかぶる鶴、亀、松、竹、梅、えびす、大黒などのおめでたい図柄で飾られた烏帽子が、えんぶり烏帽子である。古来より太夫が一心不乱に舞い続けるとき、その烏帽子には神が宿り太夫はまさに神の化身になるとされている。よってえんぶり烏帽子はいわば農神の象徴として、太夫によって丁重に扱われている。

主な製品 えんぶり烏帽子

主な製造工程 下張り→成型→絵柄の素描→色付け→たてがみ付け→前髪付け→彩飾→完成

CONTACT

小坂　勝義／八戸市長根 4-14-3　☎ 0178-43-9327

諸工芸品

28 津軽凧

Tsugaru Kites

勇壮な武者が舞う津軽の伝統的な凧「津軽凧」

津軽凧は窮した藩士の内職として江戸時代から作られるようになった。通常凧は竹を使って作るが、津軽地方では寒さで竹がなかなか育たない環境だった。そのため凧の骨に、軽くて弾力性に富むヒバ材を薄く削って用いるようになった。
凧絵は、三国志や水滸伝などに登場する英雄・豪傑のほか、日本の歴史上の武将を題材とした勇壮な武者絵が多く描かれる。太く力強い墨の線と赤を基調とした鮮やかな色彩で描き出される武者は、弘前ねぷたさながらに見る者をひきつける。

主な製品　凧

主な製造工程　骨組の木取り→組立→墨書き→裏打ち→彩色→仕上げ→骨張り付け→縁紙張り付け→糸目付け→ブンブ作り→完成

CONTACT

津軽藩ねぷた村　／弘前市亀甲町 61　☎ 0172-39-1511
ねぷた・凧のなりた／弘前市石渡 2-4-13　☎ 0172-34-4960
髙橋紋章染工場　／弘前市田町 2-1-21　☎0172-32-0793

諸工芸品

29 太鼓

"Taiko"（Drums）

武者魂を奮い起こす勇壮な音を響かせる「太鼓」

太鼓は津軽地方の祭りであるねぷたには欠かせないものであり、藩政時代から現在まで受け継がれてきた。津軽の太鼓は弘前の工芸品である桶を用い、胴に馬や牛の皮張りをして作られる。
太鼓の生命ともいうべき皮の部分は、毛の処理・なめし・乾燥・皮張りと全工程手作業で行われている。特に厚さ 2 ミリメートルに皮を削る作業は伝統の手技である。
現在は青森の短い夏に迫力を添えるばかりでなく、楽器や神事用として広く全国各地に出荷されている。

主な製品　桶太鼓・長胴太鼓・附締太鼓

主な製造工程　原皮塩抜→原皮の油及び肉の除去→原皮毛抜→皮の乾燥→皮の削り→皮張り→皮縁塗装→桶胴塗装→ひも染め→組立→完成

CONTACT

塩谷太鼓店／弘前市南大町 2-1-3　☎ 0172-32-9556

諸工芸品

30 五戸ばおり

Gonohe "Baori"（straw hat）

独特の曲線が美しく実用性の高い「五戸ばおり」

五戸ばおりは江戸時代末期に考案された編み笠の一種で、軽く丈夫なことから農作業などに利用されていた。
イ草の特徴である「水分を含むと網目は閉まり、雨を通さない」性質を活かし、重宝されていた。昭和 40 年代ごろに安い麦わら帽子などの普及により需要が減ったため、職人の数も少なくなったが、技術は現在に伝えられている。
すべてを手作業で丁寧に作り上げ、つばのふちに細い竹の芯を入れて整える独特のカーブは、見た目が美しいだけでなく視界を確保する実用性も兼ね備えている。

主な製品　ばおり・ミニチュアばおり

主な製造工程　あぶつら→ふち巻き→色あぶを編む→腰の部分を編む→はねの部分を編む→ふち巻き・ふち止め→頭の仕上げ・あご布・紐つけ→仕上げ→完成

CONTACT

稲村　幸男／五戸町字新蔵長根 24-7　☎ 0178-62-3423

諸工芸品

31 金魚ねぷた

"Kingyo"（Goldfish）"Neputa"

津軽の祭りに欠かすことのできない夏の風物詩「金魚ねぷた」

弘前ねぷたは、1722(享保 7) 年に初めて文献に登場して以来、様々な形のねぷたが時代を彩ってきた。江戸時代、金魚は一部の上流階級の間でしか飼うことのできなかった高級魚であった。庶民は憧れを抱き、それをねぷたにして子供たちに祭りの時、提灯のように持たせ練り歩いたとされる。「金魚」はその名の通り金運をもたらし幸福を呼ぶ縁起物として長きに亘り、廃れずに今現在も市民に親しまれている馴染み深い工芸品である。近年では、祭りのみならずインテリア装飾やお土産としても人気を集めている。また、様々なバリエーションの金魚ねぷたが製作され、伝統工芸の新たな発展と話題作りにも努めている。

主な製品　灯籠

主な製造工程　竹割→骨組→紙貼り→墨描き→ロウ描き→彩色→仕上げ→完成

CONTACT

津軽藩ねぷた村／　弘前市亀甲町 61　☎ 0172-39-1511
ねぷた・凧のなりた／弘前市石渡 2-4-13　☎0172-34-4960
髙橋紋章染工場／　弘前市田町 2-1-21　☎0172-32-0793

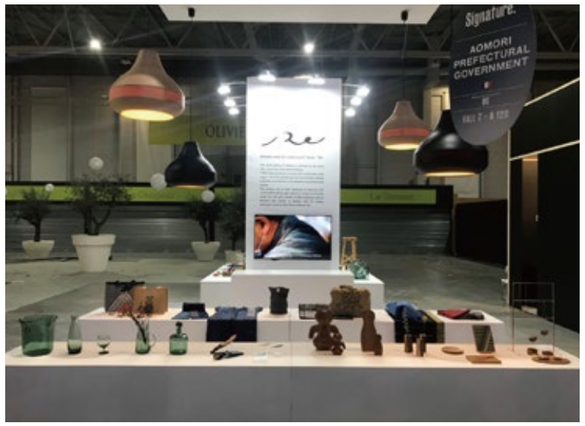
伝統工芸品の海外展開

青森県では、平成 30 年度から、本県工芸品の海外への販路開拓に積極的に取り組んでいます。

フランス・パリの国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に出展（令和３・４年度）

令和４年度（2022 年度）は、2023 年１月に開催された国際見本市「メゾン･エ･オブジェ」に青森県ブースを出展し、県内工芸品事業者７者が参加しました。津軽びいどろ、こぎん刺し、木工製品、津軽打刃物、南部菱刺し、南部裂織の各職人が、来場者に商品の内容・価値を直接説明しながら商談を行いました。また、ブースデザインにはブナコの照明を使用し、シンプルかつモダンな空間となりました。

リサイクル、リユース、リメイクという意味の「Re」をテーマとした３回目の出展は、継続した出展による認知度向上とコロナ禍での持続可能性への関心の高まりなどから、ブースを訪れる来場者が増え、海外での販路開拓につながりました。



令和３年度（2021 年度）は、例年１月にパリで開催されている国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」が新型コロナウイルス感染症拡大による会期変更で 2022 年３月に実施され、県内工芸品事業者６者が参加しました。顧客ニーズに合わせてブラッシュアップしたブナコやこぎん刺し、津軽びいどろなどの商品を展示し、本県工芸品などの PR 及び海外バイヤーとの商談を行いました。

“古来より「Re」の精神を育んできた青森の地で作られた工芸品を通して人間らしい生活を取り戻す”というスローガンにもとづく商品は多くの来場者から共感を得ることができ、サスティナブルな商品の魅力を発信することができました。

2023 年１月開催の国際見本市「メゾン･エ･オブジェ」（フランス･パリ）に展示した商品の一部をご紹介します。

北洋硝子株式会社

漁業用の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して生み出された、青森の自然をイメージしたハンドメイドガラス「津軽びいどろ」を製作しています。職人たちは、新たな技法の習得や美しい色ガラスの調合など、常に新しい技術の習得へのたゆみない努力を続け、現在では、多様な技術・技法、独自で調合する世界的にも類をみない色数を活かしたガラス製品となっています。

有限会社弘前こぎん研究所

北国の寒さ厳しい風土の中、青森県津軽地方の農家の女性たちが生み出した「こぎん刺し」の技法を活用した製品を製作しています。こぎん刺しは、ただ布を補強するだけでなく、そこに様々な模様を生み出しながら発展し、現在では濃紺の麻布に白い木綿糸で刺す伝統的なスタイルから、カラフルな色使いまで、現代の生活に馴染む商品となっています。

有限会社木村木品製作所

りんごの生産量では市町村単位で世界一の青森県弘前市で、今年で創業 50 年となる木工所です。私達は、様々な理由から薪以外には活用出来ず、毎年廃棄処分されているりんごの木を活用し、これまで培ってきた日本伝統の木工技術を使いながら、りんごの木の木目色目の美しさや肌触りの良さを活かした木工商品を製作しています。

有限会社二唐刃物鍛造所

津軽藩より作刀を拝命して以来 350 年の伝統を持つ鍛造所です。受け継いだ技術を応用し、現在ではコレクション需要もある海外向けとして、特殊な厚手鋼材を加工する製法により、他社では作れない複雑な紋様を浮かび上がらせた包丁「暗紋」シリーズに注力しています。少量生産ながらも高付加価値のものづくりを行っています。

南部菱刺研究会つづれや

草木染めで染め上げた木綿糸で麻布に刺繍をする「南部菱刺し」の技術を用いて、現代の暮らしと調和した商品を製作しています。商品の製作のみならず、ワークショップも各所で開催するなど積極的に活動し、先人の知恵を後世に受け継いでいます。布製品はもちろん、デニムや皮を使った製品も製作しており、常に新しい発想でものづくりをしています。

さきおり CHICKA

青森県南部地方の、農村地方の女性たちが布を大切にするための知恵から生まれた「南部裂織」の技法を応用して、テキスタイルを製作しています。昔ながらの地機を使いつつ、古布を裂いて糸にし、異素材の糸や草木染めの糸を組み合せて織り上げ、暮らしのアクセントとなるような作品を製作しています。

三つ豆

「伝統的なものを身近に彩る」をコンセプトに、青森県津軽地方の伝統工芸「こぎん刺し」の技法を活用したアイテムを製作しています。草木染糸を使用した現代生活に馴染む色使いと、古作こぎんの伝統的な図案を融合させることで、伝統技術・技法を継承しつつ、若い消費者にも手にとっていただける商品となっています。

ブナコ株式会社

世界自然遺産に登録されている白神のブナ原生林がある青森県は、日本一のブナの蓄積量を誇っています。そこでブナを活用した付加価値の高いものを作りだそうと考案されたのがブナコです。テープ状にしたブナ材をコイルのように巻き、押し出して成型するというブナコ独自の製法により、テーブルウエアやランプなどの独特の美しさとぬくもりが感じられる製品を提供しています。2023 年１月の展示会では、ブースの照明として使用されました。